

風評被害払拭へ「佐賀県は元気です！」

この時季の、飯田蛇笏のよく知られた句に「くろがねの秋の風鈴鳴りにけり」がある。

近代俳句に大きな足跡を残した父を持った息子の龍太は、来客にしばしば困らせられることがあったという。

たまたま軒の風鈴が鳴ると、「オヤ、あれが、くろがねの風鈴ですね」と席を立つ。〈こんな時、私は、いつもアイマイな返事をすることになる。芭蕉の「古池」は、実際の古池よりはるかに趣があるに決まっている。物語の美女にしても、現実のモデルより、常に魅惑的なはずではないか〉と、やや赤面交じりにエッセーにつづっている。

詩歌の世界のように、イメージが美しく昇華されるならいい。これが逆にマイナスに働くと、払拭するのは容易ではない。俗にいう「風評被害」である。

8月末に北部九州を襲った記録的な豪雨で、佐賀県内有数の観光地の一つである武雄市の周辺地域に深刻な浸水被害があった。鉄工所からの油流出が全国ニュースで連日報じられたこともあって、保養地として1300年もの歴史を持つ武雄温泉には何ら被害がなかったにもかかわらず、宿泊予約のキャンセルが相次いだ。

折から、貿易規制の強化などをめぐる日韓対立の激化で佐賀空港の韓国LCC（格安航空会社）路線が運休。韓国人旅行客の減少も追い打ちをかける形になった。

「佐賀県は元気です」一県はツイッターなどで情報発信に力を入れ、宿泊割引キャンペーンなども展開。被災地を支援しようという機運の高まりもあって、宿泊客は徐々に持ち直しつつある。

武雄を代表する観光名所、御船山楽園ではCGを駆使したデジタルアート「かみさまがすまう森」を開催中。池や巨石などの自然の中に映し出された生き物や滝、花々が幻想的な世界へと誘う。

飯田家の〈秋の風鈴〉は季節外れだが、武雄観光は今が旬。本当の佐賀の姿にぜひ触れていただきたい。

佐賀新聞社 論説委員長 桑原 昇



武雄観光を代表する御船山楽園で開かれているデジタルアート、「かみさまがすまう森」